

# アッケシソウを楽しむ来観者



一般来観者の皆さん



寄島小学校5年生による緑のアッケシソウ観察会



備中ブロック商工会婦人部の皆さん



たのしく見学・観察するちびっ子たち

# アッケシソウ通信

第10号

令和2年10月

# アッケシソウの生育状況



発芽したアッケシソウ



生長するアッケシソウ



開花したアッケシソウ



紅葉したアッケシソウ

# 「アッケシソウ通信」第十号 によせて

浅口市長 栗山康彦

アッケシソウ通信第十号の発行を迎えられましたことを、心よりお慶び申し上げます。平成二十三年の創刊から今回で十号目となり、貴会皆様方のお慶びもひとしおかと存じます。また日頃より献身的にご活動いただきまして、改めて深く御礼申し上げます。

ご承知のとおり、今年は新型コロナウイルス感染症が猛威を振るっているほか、連日の猛暑などの異常気象にも襲われ、多くの方が心身ともに疲弊されているのではと懸念しております。一方で、大変喜ばしいこともございます。一昨年、昨年と続けて様々な賞を受賞されていらっしゃるようですが、今年は、岡山県観光連盟による「令和二年度観光事業功労者表彰」と公益財団法人社会貢献支援財団による「第五十四回社会貢献者表彰」を受賞されました。誠にめでたうございます。絶滅危惧種、市指定天然記念物のアッケシソウを保護し、自生地を観光名所へと発展させたことは、並々ならぬ努力によってなされたものですし、それが表彰という形で高く評価されましたことは、私といたしましても大変喜ばしい限りです。自生地では、今日も皆様方に、熱心にこ

活動いただいております。

現在は、新型コロナウイルス感染症の拡大防止のため、県外からの来訪は厳しい状況ですが、この先も変わらず、私たちを魅了し続ける美しい姿や景色を、多くの方にお楽しみいただき、あわせてそれが皆様方の活力の源となりますことをお祈りし、ご挨拶いたします。

## アッケシソウの生育地の保全

岡山理科大学 特担教授

星野卓二

はじめに

星野教授には、当初から寄島町干拓地で発見された絶滅危惧種「アッケシソウ」の研究・調査・保全活動に尽力されており、現在も我々を守る会のアドバイザーとしてご指導をいただいております。今回は長年の活動においてアッケシソウの生態系の維持に必要とする、生育地の保全について寄稿していただきましたので紹介します。今回は「アッケシソウ通信」に二回に分けて掲載させて頂きますのでご了承下さい。

アッケシソウは岡山県レッドデータブック二〇二〇で絶滅危惧種二類とされ、特に絶滅が危惧される植物分類群である。

寄島干拓地のアッケシソウは「守る会」の精力的な活動で生育地の環境が維持されていて、生育範囲も広がっている。本稿では、寄島干拓地、近海塩田跡地および北海道のアッケシソウの生育環境を比較し、アッケシソウの生態系の維持には何が必要かを考えてみたい。

### 一、アッケシソウの分布

アッケシソウは北方系の植物であり、岡山県の瀬戸内地方に隔離分布する集団は貴重である。瀬戸内沿岸地域は年間の降水日数が特に少なく、かつては塩田が多く見られた。香川大学の国分寛教授のグループは、香川県内のアッケシソウの調査を行い多くの塩田跡地で生育を確認している。徳島県、愛媛県の塩田跡地でもアッケシソウの生育が確認されている。

国分教授の調査の後、堤防の改修工事などにより、ほとんどの塩田跡地が消滅してしまった。現在は、香川県の木沢塩田跡で集団が確認されており、新居浜でも保護されているが、その他の地域では見ることができなくなったようである。

### 二、北海道のアッケシソウ

北海道のアッケシは、海岸の塩湿地で泥混じりの砂地に広く分布している。北海道教育大学の神田房行教授らのグループは、アッケシソウ群落の植生調査を行い生育環境を明らかにしている。北海道の能取湖周辺では、アッケシソウは海岸近くの冠水する場所で純群落が見られ、

海岸から離れるとウシオツメクサやウミドリと混生している。さらに陸地に近い場所では、ヨシが優先しアッケシソウも見られなくなる。報告書では、アッケシソウの最適生育条件は、砂質主体の塩湿地であると結論づけられている。さらに、泥土が多く堆積した場所では個体数は多いが、ヨシ群落が発達してアッケシソウ群落は衰退する傾向が見られることが報告されている。多くの観光客が訪れる能取湖では、アッケシソウ群落を維持するために定期的にヨシの駆除が行われている場所もある。

北海道の能取湖の卯原内地区にはアッケシソウの大集団があり、多くの観光客が紅葉を見るために訪れる。数年前に、この地域にもアッケシソウ集団に大きな被害があり個体数が激減してしまった。

アッケシソウの色づきが悪くなったため、新たに防波堤を設置したことや、土壌の改良を行ったことが原因で個体数が激減したものと推定されている。その後、網走市と市内の大学が連携してアッケシソウの生育地が復元された。

### 三、錦海塩田跡地のアッケシソウ

瀬戸内のアッケシソウ群落は、塩田跡地の砂地に発達している。北海道での調査から、アッケシソウの最適生育環境は塩湿地でも砂地の方が適しているとの結果であり、瀬戸内の塩田跡地はこの結果

と一致する。様々な開発事業により塩田跡地がなくなるに伴い、瀬戸内のアツケシソウ育成地は消滅していった。

瀬戸内市の錦海塩田跡地のアツケシソウが生育している場所は、防波堤の内側の遊水池で囲まれている。また、防波堤の底から海水がアツケシソウの生育地に流入している点は奇島の環境と似ている。

しかし、異なる点もある。錦海塩田跡地ではアツケシソウの純群落が多く見られる。ただ、奇島干拓地より、この群落内のアツケシソウの個体数は少ない。塩湿地周辺にはヨシの群落が発達しているが、アツケシソウの生育地にはヨシやシオクグが少ない場所が多い。近海塩田跡地の遊水池に近いアツケシソウ群落は、満潮時には群落が塩水に浸される。ヨシは塩水につかる場所では生育が困難であるため、アツケシソウの純群落となりやすいと考えられる。

次号に、「四、奇島のアツケシソウ」から続きますのでご期待下さい。

## 奇島小学校・児童の作文

本年度から本格的に「よしま学」という学習の開発・取組みが始まりました。その中で、奇島に自生するアツケシソウを学習・活動内容として取上げ発表しました。昨年の五年生、五名から作文を投稿して頂きました。その中から一名の児童の作文を掲載させていただきます。

「奇島の自まん」

藤澤 里帆

私が、五年生の学習でアツケシソウのことを教わる前は、アツケシソウのことを何一つすこいなんて思っていませんでした。でも、アツケシソウを守る会の花房先生から教わって、少し、日常が変わりました。犬の散歩の途中にアツケシソウを見に行くこともありました。

私は、花房先生のお話からたくさん知識を学びました。その中でも、アツケシソウが絶滅危惧種ということにとまびつくりしました。そんなに大変ですばらしいものだなあと思いました。さらに世界的にも少ないことに驚きました。また、アツケシソウが食べられることにもおどろきました。少ししょっぱくて、おいしかったです。塩でも入っているのかなあと思いました。

私は、これから、アツケシソウを世界的に広めて、みんながアツケシソウのことを知って、良さを伝えられるようにしていきたいです。時間があればアツケシソウを見に行ったり、調べたりして、もっとアツケシソウのことにくわしくなっていきたいです。



他の四名の作文の題名と名前は次の通りです。

「不思議がたくさんアツケシソウ」頃末 愛心

「みんなで守ろうアツケシソウ」道廣 心愛

「奇島のほけりアツケシソウ」村上 京祐

「奇島のアツケシソウ」村上 春輝

今年六年生になった皆さんには、これからも浅口市の天然記念物「アツケシソウ」を大事に見守り育てて頂くことを願っています。



## 県立玉島高校・生徒の寄稿文

玉島高等学校に通学している三人の生徒が課題研究テーマとしてアツケシソウを取上げ、岡山県理科課題研究合同発表会でステージ発表をした結果、優秀賞を受賞されました。受賞した生徒三人の思いを紹介します。

岡山県立玉島高等学校・理科三年

大室 菜香・小笠原 萌・山下 潤子

私たちは、県立玉島高校の理科に所属しています。二年生の課題研究で研究テーマを考えていく中で、家の近くにあるアツケシソウに自生しているアツケシソウを研究しようと思いました。

調べていくうちに、アツケシソウの名前の由来は、北海道の厚岸町にちなんで命名されたことや遺伝的には韓国のアツケシソウと近いことなどを新たに知ることが出来ました。また実験の際には久しぶりにアツケシソウに行ったり、アツケシソウを守る会の花房会長から貴重なお話を聞いたりできました。

そして岡山理科大学の星野先生には実験方法や結果についてアドバイスをいただいて自分たちの知識を深めることができました。

この研究結果を、岡山県理科課題研究合同発表会でステージ発表し、優秀賞を受賞することができました。これらの経験を通して、アツケシソウを守るために多くの方が尽力していることが分かり、地域のことに

ついて改めて考えるよい機会になりました。



**公益財団法人 社会貢献支援財団  
「社会貢献者表彰」**

この表彰は、自然環境や絶滅危惧種などの希少生物の保護につくした功績が認められたものです。  
「日本財団賞」として表彰状と副賞を賜りました。



**岡山県観光連盟  
「観光事業者功労者表彰」**

この表彰は、県観光の発展に独自の取組みにより、顕著な功績のあった団体に表彰状と記念品が贈られたものです。



**企業からの助成金紹介**

**笠岡東ロータリークラブ**

昨年に続いて、今年も寄付金を賜りました。ご支援とご厚志に心から御礼を申し上げます。

**「アッケシソウを守る会」  
からお願い**

会員は現在、個人賛助会員、作業会員をあわせて六十余名。その内作業会員は十五名です。

その作業会員も、八十半ばを越え、草刈作業が困難となり、離脱を余儀なくされているのが現状です。

その様な中、今年は新型コロナウィルスの発生により、おかやま山陽高校のサッカー部、空手部の皆さん、そして浅口



市スポーツ少年団の皆さんの若い力に頼ることが出来なくなりました。しかし、

その厳しい中であって、現在浅口清掃センターの皆さんの力強いボランティア活

動に助けられて頑張っています。また作業会員で、福山市神辺町という遠路を来ていただいている方もおられ心強く思います。

浅口市内外の皆さんの作業会員入会を心よりお待ちしております。なお、会費は年間千円です。ふれあい交流館「サンパレア」事務室までご連絡下さい。

「アッケシソウ通信」第十号をお届け致します。

残暑の中、九月十二日に「緑のアッケシソウを楽しむ会」が行われました。

**編集後記**

僅か半日でしたが、早速に訪れ見学・観察をする姿に我々作業会員たちは元気を頂きました。感謝すると共に、皆様のさらなるご支援とご協

力を心からお願ひ申し上げます。

今年「アッケシソウまつり」は、新型コロナウイルスの感染防止対策として中止とさせていただきます。われわれ「アッケシソウを守る会」会員は、見学者の方達をお迎えする事が出来なくなりましたが、見学は出来ないので是非紅いアッケシソウを見に来て下さい。お待ちしております。期間は十月十五日から二十四日までです。



**令和二年度 事業内容**

- 4月 定期総会・新型コロナウイルス感染症防止対策により中止。
- 5月 会員研修視察・新型コロナウイルス感染症防止対策により中止。
- 7月11日(土) 第一回自生地草刈り作業
- 9月5日(土) 第二回自生地の草刈り作業
- 9月12日(土) 緑のアッケシソウを楽しむ会
- 10月 アッケシソウ通信第十号発行
- 10月15日(木) 紅葉のアッケシソウ一般公開
- 10月24日(土) 九時～十六時
- 冬季 自生地整備(種取り・種蒔き)
- 随時 役員会・害虫の発生防除・調査